

お手入れ方法 鍔編

お客様から「鍔のお手入れ方法、錆の落とし方について教えてください!」とお声を頂きましたので、当社のお手入れ方法を紹介させていただきます。
鍔の天敵は、湿気・塩・油(手油、永年付着した劣化した油による酸化)です。鉄鍔の手入れについては様々な方法がありますが、弊社がおすすめのお手入れ方法は「木綿の布・柔らかい布で優しく磨く」ことです。
現代では室温や湿度の調整ができますが、昔の人は梅雨の湿気をうまく利用し、お手入れしていたそうです。雨季の期間になると、保管している鍔を箱から取り出します。梅雨が終わる頃には鍔に、油や湿気が付き、木綿の布で磨きます。

次の日には、新たな錆などが出てきます。それをまた再び磨いていく…錆が出なくなるまでこの作業を続け、およそ夏が終わる頃まで、毎日繰り返しお手入れをし、害虫や湿気から守る、通気性のよい桐箱に入れて保管していました。ですが、中々落ちにくいのが「赤錆」です。

〈赤錆の落とし方〉

●用意するもの●

- ・木綿の布
- ・柔らかい歯ブラシ
- ・鹿の角や楊枝

1. 布で磨く
2. 錆の部分に鹿の角を擦りつけると、錆が出てきます。毛彫など細かいところは、爪楊枝で汚れを取り除きます。
3. 歯ブラシで優しく磨きます。
4. 再び布で磨きます。
5. 天気の良い日に、鍔を天日干しします。

象嵌や細工がある鍔は傷つく恐れがありますので気を付けて下さい



基本的にはこれで手入れは完了ですが、赤錆はまた出てきます。この作業を根気よく続けて、時間をかけていけば、柔らかい鉄味になります。他に、油を塗る手入れ方法もありますが、鍔本来の艶やかさが失われる可能性がありますのであまりお勧めはしていません。ですが、あまりにもひどい赤錆には丁子油を薄く塗り、布で磨いていきます。大切に愛され、保管されていた鍔は一目で分かるほど、柔らかく綺麗な鉄味をしています。数か月に一度磨くだけでも、趣がある鍔へと変化していくと思います。ぜひ、梅雨の湿気を利用してお手入れをしては如何でしょうか?



経営理念

有限会社大名は「届けますっ!大和魂」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

こんにちは。中堀明美です。梅雨の季節になりましたね。皆様、いかがお過ごしでしょうか?ジメジメした毎日、洗濯物が乾かなくて困りますが、穀物などが育つ恵みの雨でもございます。そして雨をしのぐ道具といえば傘ですが、昔はどんな雨具があったのでしょうか?

～梅雨と呼ばれるようになったのは～

中国では、^{かび}黴の生えやすい時期の雨という意味で「^{つゆ}黴雨」と初めは呼ばれていましたが、梅の熟す時期でもあったことから、のちに「梅雨」と呼ばれるようになりました。日本では、江戸時代から梅雨と呼ばれるようになり、『^{つゆ}露』から来ているそうです。因みに「五月雨」という言葉もありますが、旧暦5月は現在の6月にあたりますので、梅雨を表します。



「笠」から「傘」へ

雨や雪、さらには暑い日差しをよける道具として大活躍だったのが「笠」です。

手に持つ「傘」は古墳時代に中国から伝来したといわれています。貴人にさしかける天蓋として使われていま

たが時代とともに改良を重ねられ、室町時代には和紙に防水用の油を塗った「傘」が使用されるようになりました。江戸中期頃になると「笠」に代わって手に持つ「傘」が庶民の間にも普及していきました。実用品として広く普及しただけでなく、お祭り用の傘や歌舞伎の小道具などとしても大活躍していきました。



蓑(みの)

素材である^{わら}藁は撥水性があるうえ、雨粒があたっても繊維に沿って流れ落ちるため内部には水が染み込まないという優れたもの。ですが、かさばる上に、燃えやすい材質の為、火気は厳禁という弱点もありました。



合羽(かっぱ)

マントのような形をしている合羽です。戦国時代、南蛮人から伝来したマントは、^{らしゃ}羅紗など高級素材が使われ、織田信長や豊臣秀吉といった武将に珍重されました。江戸時代になると和紙に油を塗り防水加工を施した「紙合羽」が登場し、安い・軽い・便利と三拍子そろっていることからあつという間に庶民にも広まりました。合羽は現代でも使用されていますよ!



まさか戦国時代から合羽があったなんて驚きました。今と昔では形は違いますが、日々進化しながらも実用的なものは残されているのだと感じました。

届きました!!

しろねこ大名便

お年玉プレゼント



『光隆丸』様

ご当選おめでとうございます!!お写真、誠にありがとうございます。是非キャンプでご活用下さい(*^^*) 今後共、どうぞよろしくお願い致します。

本日、プレゼントのアウトドアチェアが届きました。この度はありがとうございました。キャンプに持って行きたいと思います。



今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。

件名:ニュースレター返信と入力して送信して下さい。



最新情報はホームページ <https://daimyou.com/>
 有限会社 大名 広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp
 TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

こんにちは、島谷貴子です。今号では、室町後期以降の兜について語らせて頂きます。



語ります 大和魂

大量生産???

室町時代後期、「応仁の乱」*^①が起り、室町幕府が弱体化していき、全国各地では戦乱が激しくなりました。その後、自らの力で自国を作る戦国大名が誕生していき、更に戦乱の世となっていました。集団・団体戦に必要な大量の兵員に合わせた甲冑・兜が製作され、合理的かつ簡略化された製法を余儀なくされていきました。

理由として、**簡単な作りで、大量生産可能** **部品が少なく、低コストだった** **表面が平らで球面の為、防御率が高い**

為、「突笠形兜」*^②「頭形兜」が、流行していきました。

*^① 八代将軍・足利義政の後継者争いが原因で起こった争い
*^② 頭盔・鳥盔・突貝・突背・兜盔の文字も使われている

突笠形兜

天辺が尖った兜のこと

特徴
一枚の鉄板の端を巻き合わせて留めた鉢
上級武士の鉢は黒漆塗総覆輪で二枚鉄打出し

突笠形兜の種類

椎形	柿形	筆頭	錐形	角先
先端が椎の実の様な形	先端が柿の様な形	筆の先端の様な形	錐のように細長く尖った形	三角とんがり帽子の様な形 最も製作が簡単

戦国武将が甲冑製作???

日根野備中守弘就と細川越中守忠興

は、武将にも関わらず、甲冑師との関係も緊密で、自ら製作にも打ち込んでいたそうです。兜の特徴を捉え、古頭形を改良し、野戦での実用性を兼ね備えたものを完成させたのが、「日根野頭形」「越中頭形」です。



頭形兜

人間の頭の形をしている兜のこと

特徴
「上板」と左右の「脇板」、幅広い「腰巻板」、正面の板の5枚を剥ぎ合わせた鉢

頭形兜の種類

古頭形	日根野頭形	越中頭形
日根野備中守弘就が考案 (1518~1602年没)	日根野備中守弘就が考案 (1518~1602年没)	細川越中守忠興が考案 (1563~1646年没)
上板が上重ね眉庇 眉庇が滑らか 曲線的な形状 天辺の穴あり	上板が下重ね眉庇 天辺なし 眉庇が滑らか 曲線的な形状	上板が上重ね眉庇 天辺なし 眉庇が滑らか 直線的な形状

筋兜は、鉄を贅沢に使い見た目も華やかですが、重量約2kgと長時間着用には適していません。反対に、頭形兜は重量約1kg前後で、長時間着用可能。見た目は華やかではありませんが、表面が平らで球面に近いので、刀や槍、薙刀、鉄砲の弾もそれやすい作りで、実践向き。鉄砲戦が主流だった為、防御力の高い頭形兜が流行していったのだと思います。戦場にいた武将だからこそ出来た改良だったのだと思います。その為、戦国時代には「日根野頭形」を原型とした、武将独自の装飾兜が流行していきました。徳川家康、真田信繁、井伊直政、立花宗茂、千利休が着用していた兜も変化した装飾兜です。次号では「桃形兜」、「鳥帽子形兜」を語らせて頂きます。



ハナエモンのタイムスリップ!

今年は「〜名人」にタイムスリップしていこうと思います。今号は海戦名人のこの方に「タ〜イムスリップ!」

海賊大名 九鬼嘉隆

くき よしたか 1542-1600年

信長の家来に

あごくん 志摩国英虞郡 (三重県志摩市の一部) を拠点とする九鬼定隆の三男として生まれます。志摩国の中での争いの中、兄が戦死したことで甥を助けることになった嘉隆。1569年 (27歳)、信長が北畠具教を攻めた時、水軍を率いて参戦し城を落とすなどの活躍をしたことで、信長の家来になりました。信長の後押しもあり、志摩国を手に入れます。信長から九鬼家の家督を継ぐように言われ九鬼の頭領となりました。

織田水軍として

1576年 (34歳)、第一次木津川口の戦いで毛利水軍と織田水軍の海戦が起こりました。毛利水軍が使用する焙烙玉 (陶器に火薬を入れて投げ込む手榴弾のようなもの)、火矢により、多くの船を失う敗北を喫します。この敗北から、木船の外表面を薄い鉄板で覆った大安宅船を建造し、更には大鉄砲・大砲を搭載した軍船を完成させました。1578年 (36歳)、第二次木津川口の戦いで、敵船を近くまで引き寄せ砲撃したことで、それ以降、毛利水軍が恐れて近づけなくなり退却させます。この軍功から嘉隆は三万五千石の大名に取り立てられます。

九鬼家の為に

信長の死後、秀吉に仕えた嘉隆。秀吉が亡くなり、関ヶ原の戦いが起こると嘉隆は九鬼家が残る為に自身は西軍に、息子・守隆は東軍に与しました。西軍が敗れると、守隆が徳川家康に父の助命を嘆願します。関ヶ原の功績の大きさから、受け入れてもらうことが出来ました。しかし、九鬼家家臣・豊田五郎右衛門が九鬼家を思うが故に嘉隆に切腹を促し、嘉隆も受け入れ、切腹をしてしまいます。(享年59歳)

その後、徳川幕府は諸大名の戦力、経済力を削ぐ為、大型船の所有を禁止します。その船の受取を行ったのが徳川水軍の長である守隆で、それが水軍の武将としての最後の仕事でもありました。何とも複雑ですね。